

**町内産春メロンスタート!**  
**JA水戸茨城町メロン部会が**  
**大井川県知事を表敬訪問**

JA水戸茨城町メロン部会（金子孝広部会長）が3月25日（水）に初出荷を迎え、相田幸夫さんが生産した「オトメメロン」123ケースを市場へ出荷しました。

また、4月2日（木）には、JA水戸園部優組合長と小林宣夫町長ほか関係者が大井川和彦茨城県知事を表敬訪問し、緑肉の「オトメメロン」と赤肉の「レノンメロン」のPR活動を実施しました。大井川県知事からは「昨年のいばらきメロン品評会では、茨城町のメロン生産者の技術の高さが評価され、最優秀賞受賞という結果につながった。今後もより高品質なメロンの生産を目指して、県内の産地で切磋琢磨して頑張してほしい。県としても販売促進に力を入れていく。」との言葉をいただきました。

オトメメロンは、糖度15度以上、レノンメロンは糖度16度以上で出荷されています。同部会では他にも「イバラキング」「アンデス」などの品種を生産しています。

同部会のメロンは、町内の直売所やネット販売でも購入できますので、ぜひご賞味ください。



JA水戸 金子部会長 相田さん JA水戸 海老沢専務 植木常務



長谷川 小林 大井川 JA水戸 金子 県議 町長 県知事 園部組合長 部会長

橋本畜産(株)（橋本武二代表取締役、写真左）より、町に100万円が寄附されました。

橋本代表は、長きにわたり町や茨城町社会福祉協議会へ多額の寄附を行っており、さまざまな行政サービス・福祉サービスの充実に寄与するなど、多大な支援をされています。

贈呈式の中で橋本代表は「住んでよかったと思える町になるよう、幅広く活用してほしい。」と寄附に込めた思いを語りました。

小林町長は「多大な心遣いに感謝申し上げる。町の発展のために活用させていただきたい。」と謝辞を述べました。

**橋本畜産株式会社**  
**町へ100万円の寄附**



**5人の委員を決定**  
**新たな政治倫理審査会委員が**  
**決まりました**

茨城町政治倫理審査会について、新たに5名の委員が決定し、委嘱状が交付されました。

同審査会は、町長、副町長、教育長および町議会議員が、その地位を利用し、自らの利益を図ることがないよう、条例で定める政治倫理基準や、町の工事等に関する遵守事項に反する行為をした疑いがある場合に、町民からの調査請求により、必要な調査や審査を行う機関です。

**(政治倫理基準)**

- ・その職務に関し不正の疑惑を持たれるおそれのある行為をしないこと。
- ・地位を利用して、いかなる金品も授受しないこと。
- ・町の公共工事等に関し、特定の業者が有利になるような取り計らいをしないこと。等



川澄会長 八文字副会長 関委員 荻津委員

役職	氏名(敬称略)
会長	川澄重喜(小幡)
副会長	八文字正寛(大戸)
委員	阿久津正晴(水戸市)
委員	関尚久(小堤)
委員	荻津晴幸(鳥羽田)

**防災に対する関心と理解を深める**  
**学校給食「非常食体験メニュー」実施**

町内幼稚園、小中学校の学校給食で、給食の一品として非常食「根菜汁」が提供されました。

平成23年3月11日の東日本大震災をはじめ、全国各地で災害が頻発している昨今の状況をふまえ、児童生徒等が災害時における食事をイメージできるようにしました。また、食べ物への感謝の気持ちを育むとともに、防災に対する関心と理解を深めることを目的としました。

栄養教諭が非常食についての動画を作成し、提供日までに児童生徒等が視聴。大戸小学校5年生（現6年生）のクラスでは、「いただきます！」のあいさつとともに、動画で学習した内容をふまえながら、非常食を開封し、興味津々で食べる姿がありました。非常食を食べた子どもたちからは、「予想していたよりおいしかった。」や「いざという時に食べ物があるのはうれしい。」などの声が多数聞かれました。



**誰もが暮らしやすい町をつくるために**  
**人権啓発講演会を実施**



障がいのある方の人権をテーマに、「知っていますか？ 障害者差別解消法～誰もが暮らしやすい町をつくるために～」と題し、人権啓発講演会を実施しました。

障がい当事者でもある講師の有賀絵理氏（茨城県地方自治研究センター）に、自身の体験を交えながら、障がい者差別の解消や障がい者への合理的配慮の提供（※）についてわかりやすくお話をいただきました。また、「普段からあいさつ+ひとことを交わし、地域の障がい者と関係性を築いておくことが大事。」とのお話がありました。

**※合理的配慮の提供**

障がいのある人から「社会的なバリアを取り除いてほしい。」という意味が示された場合に、負担が重すぎない範囲で、バリアを取り除くために必要かつ合理的な対応をすること。

例：段差のある場所に簡易的なスロープを設置して車いすでも通れるようにする、聴覚に障がいのある方と筆談で会話するなど。

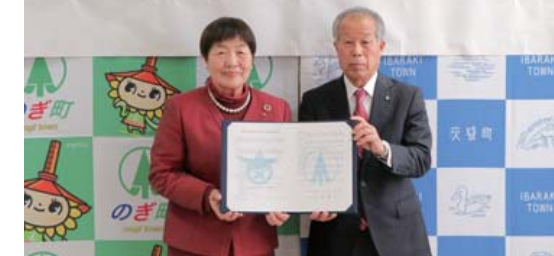
**栃木県野木町**  
**「災害時における相互応援に関する協定」を締結**

町は、栃木県野木町と、「災害時における相互応援に関する協定」を締結しました。

この協定は、茨城町と野木町のいずれかの地域で地震等の大規模な災害が発生し、被災した町が単独では十分な応急対策等が実施できない場合に、食料や飲料水、応急復旧に必要な資機材、救助活動に必要な車両などの応援業務を円滑に行うため、災害時の相互協力等を定めたものです。この協定の締結により、互いの町の災害対応をより強固なものにするとともに、災害以外の様々な分野での交流を深めながら、互いに研鑽し、協定の実効性も高めていきます。

町では、今後も安全・安心なまちづくりを目指し、災害対策に取り組んでいきます。

**茨城県茨城町・栃木県野木町**  
**における相互応援に関する協定**



野木町 真瀬町長



**野木町(のぎまち)**

栃木県の最南端に位置する人口24,722人(令和8年4月1日時点)、面積約30.27km<sup>2</sup>の町です。JR野木駅から東京まで約75分と交通の利便性から、住宅が急増し、「南の玄関口」とも呼ばれるベッドタウンとして知られています。農業が基盤で、甘い「野木のトマト」や「にっこり梨」、夏のひまわり畑が有名です。渡良瀬遊水地での自然散策も魅力。子育て支援が充実し、住みやすいまちとして知られています。